



学校教育目標 やさしく、たくましい子どもの育成

よく学ぶ よく遊ぶ 明るく仲良く 安全に

“子ども、保護者、地域、教職員、みんなが誇りに思い、楽しいと思える学校づくり”

〒801-0833 門司区清滝5-3-21 TEL 331-1708 FAX 331-1709 校長 松本喜義

平成26年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科・領域も含め、総合的に学力向上を目指しています。

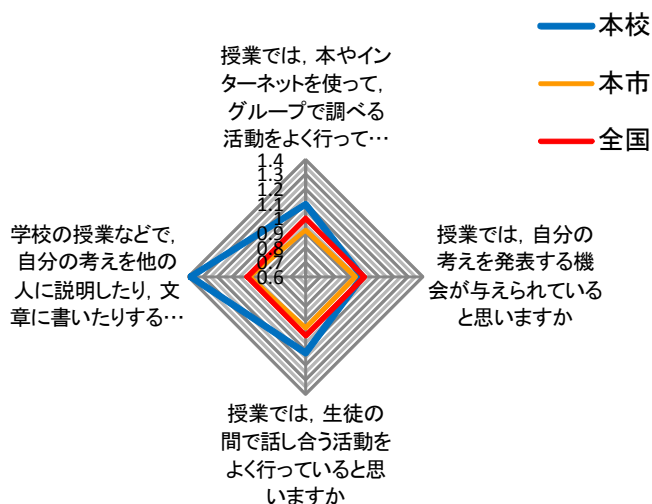
1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査結果と分析

カテゴリー	全国平均との比較	学力調査の分析（傾向や特徴）
国語A	全国平均正答率を上回っている。	・ すべての領域・観点で全国平均正答率を上回っている。 ・ 故事成語の意味と使い方を理解する問題について正答率が低かった。
国語B	全国平均正答率を上回っている。	・ すべての領域・観点で全国平均正答率を上回っている。 ・ 文章の内容について、根拠を明確にして、自分の考えを書く問題に課題がある。
算数A	全国平均正答率を上回っている。	・ すべての領域・観点で全国平均正答率を上回っている。 ・ 作図に用いられている図形の約束や性質を理解する問題について正答率が低かった。 ・ 割合の問題や分数の相等及び大小についての問題について正答率が低かった。
算数B	全国平均正答率を上回っている。	・ 図形領域以外は、全国平均正答率を上回っている。 ・ 筋道を立てて求め方や理由を記述する問題について正答率が低かった。

② 学校における学習状況に関する調査結果と分析

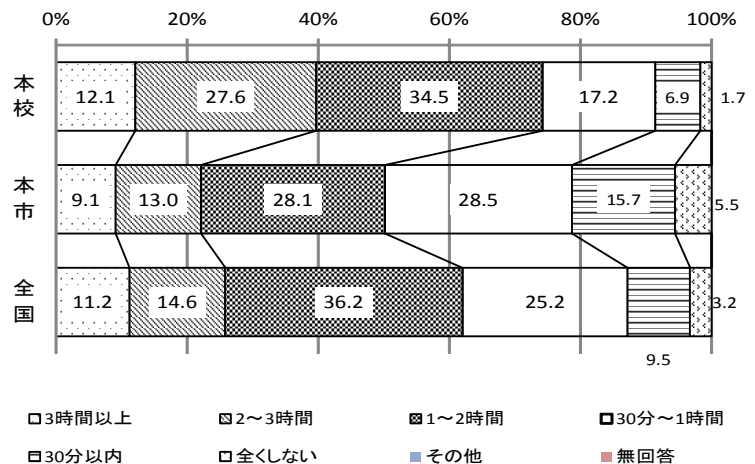
- インターネットを使った調べ活動や話し合い活動は全国平均を上回ってきており、全校でICTを活用した話し合い（対話）に取り組んでいる成果が出てきている。今後も、ICTを活用して、対話の場面を重点化し、子ども達同士の意見交換を活性化する授業を工夫していく。
- 自分の考えを他の人に発表することや、考えを文章に書くことに抵抗感を持っている児童が全国と比べ多い傾向にある。自分の考えを表現する力を伸ばすために「発表する機会の確保」と「かく活動」を重視する（ノート指導、学習感想）必要がある。
- 総じて、本校の児童は、インターネットでの調べ活動をする機会が多く、友達と話し合うことが多い。しかしながら、正答率の低い問題を見ると、自分の考えをもって発表することや、その考えを書くことを苦手としている。今後も話し合い（対話）、意見交換し、まとめたことを書く活動を授業に位置付ける。



2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果と分析

学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)



- ・ 1時間以上家庭学習をしている児童の割合は、本年度全国平均よりプラス評価である。家で計画を立てて勉強することや授業の復習等も全国平均を上回っており、自分で計画して勉強している児童の割合が増えている。本年度から家庭教育チャレンジハンドブックを通して全校で時間のめやすを示したり、家庭学習の具体的な取り組み方を提示したりしたことで、自学自習に取り組んできたことが成果として表れている。
- ・ 予習より復習を重点的に取り組んでいる。

② 生活習慣等に関する調査結果と分析

- ・ テレビ等の接触時間は、年々減少している。また、テレビゲーム等の時間も年々減少している。
- ・ 将来の夢や目標を持っている児童が多く、学習へのやる気につながっている。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ◎ 学力向上に関する職員会議の定期的な実施
 - ・ 全職員で問題を解く。(学テ・CRT)
 - ・ 家庭学習や授業の取組、朝自習の取組について検討する。
- ◎ 学力向上のための特設時間の設置
 - ・ 毎週「火・水」は朝の15分間読書、「金」は15分間の国語タイムを設定し、視写タイム・漢字練習タイム・音読等を設ける。「月・木」は15分間の計算タイムを設定し、全校一斉に基礎基本の学習の定着を図る。これら15分間の取組後、落ち着いた雰囲気のまま授業時間を迎えるようにする。
 - ・ 放課後学習タイム＜学期末・・・4・5・6年生(月火木の放課後15分×2週)、1・2・3年生(月火木の放課後15分×1週)＞の時間を設定し、CRTアシストシート・全国学力テスト過去問題を行う。
 - ・ 小中連携サポーター・・・計画的な配置、活動補助、プリント整備。
- ◎ 過去問題、アシストシート、活用力を高めるワークの活用
 - ・ 単元末に過去問題や活用ワークの問題を位置付け「力だめし」をする。
 - ・ アシストシートと過去問を冊子にして、長期休業日の「宿題」とする。
- 各教科の指導においてICTの活用
 - ・ ICTを活用して、対話の場面を重点化し、子ども達同士の意見交換を活性化する授業を工夫していく。
- 「発表する機会」「書く」ことの習慣化
 - ・ 児童の発表の場を授業に位置づける。
 - ・ 朝タイムに書く活用を図る。
 - ・ まとめたことを書く活動を授業に位置付ける。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ◎ 宿題のスタンダード化(時間、学年別・教科別内容)
 - ・ 自主学習ノートの活用
 - ・ 家庭学習時間の設定
 - ・ 「家庭学習の手引き」の作成・配布をし、学校家庭が連携して学習習慣の定着を図る。(学校独自に作成・配布済)
 - ・ 「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用 ※配布済
 - ・ 長期休業日の宿題に、過去問題やアシストシートを活用
- ◎ 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知
 - ・ 学校便り・学校HP